

本の ひろば

[月刊]キリスト教書評誌

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2016年12月1日発行（毎月一回発行）第706号

ISSN 0286-7001

出会い・本・人

多いもんにしたがう必要はない 比企敦子

本・批評と紹介

大嶋重徳 著

自由への指針 川崎公平

及川 信 著

イエスの降誕物語 白 正煥

W.H.ウィリモン、S.ハワーワス 著

東方敬信、平野克己 訳

教会を通り過ぎていく人への福音

芳賀 力

荒瀬牧彦、松本敏之 監修

そうか！なるほど！！キリスト教

桃井和馬

梅津順一 著

日本国を建てるもの 山口陽一

栗林輝夫、内藤新吾、河合弘之他 著

富坂キリスト教センター編

原発と宗教 森野善右衛門

石丸昌彦 著

キリスト教カウンセリング講座ブックレット19

健康への歩みを支える 白石弘巳

本屋さんが選んだお勧め本

近刊情報

書店案内



12 DECEMBER
2016

12月刊行予定

この一冊で
キリスト教がわかる!

標準的でエキシメンニカルなキリスト教総合辞典。信仰・異文化理解・宗教観対話に不可欠。聖書、歴史、神学から、美術、文学に至るまで約6400項目を収録。アジアやアフリカへの視点も含んだグローバルな辞典。

オックスフォード

E・A・リヴィングストン編

木寺廉太記

キリスト教辞典

● A5判函入・i024頁・本体12,000円

11月の新刊 (価格表示は税抜)

わが主よ、わが神よ

竹森満佐一

イエス伝講解説教集

一九六六年にヨルダン社から出版された書籍の復刊。

加藤常昭氏推薦「待ちに待った復刊!」本書は日本説教史の宝です。福音の真髄を知るために、どうぞ! 恵みのキリストにお会いできます」。

● 四六判・466頁・本体3,500円



加藤常昭

竹森満佐一の説教

信仰をぶつける言葉

● 四六判・304頁・本体2,900円

日本の講解説教の源流がここに!

日本の講解説教の「型」を作った竹森。彼の生涯と説教の魅力を、愛弟子であった著者が情熱を込めて解説する。説教者必読の書。



永田竹司説教集

見えない希望のもとで

33年間にわたり国際基督教大学で教鞭を執り、ICU教会の牧師を務めた著者による説教集。聖書学者としての鋭い洞察と、教師としての優しさに溢れた、現代社会に生きる指針となる真摯な言葉!

● 四六判・316頁・本体3,100円

語りつづけた言葉

岡崎 晃

● 四六判・160頁・本体1,200円

「われわれは、どこから来て、どこへ行くのか」。若い魂に、人生の意味を問いかけ、答えるばかりでなく、生涯にわたって根源的な問いを発し続ける聖書のメッセージを、飾らない言葉で語り続けた「真情の書」。フリス女学院大学チャペルでの説教集。



教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 TEL03-3561-5549(出版部)
本のご注文は(e-shop 教文館)へ! <http://shop-kyobunkwan.com/>

e-shop 教文館



出会い・本・人

子どもの権利条約第30条「多いもんにしたがう必要はない」——比企敦子

二〇一五年秋、道徳の「教科化」が決定した。二〇一八年度には小学校で評価を伴う教科となり、『私たちの道徳』は国定教科書となる。教育再生会議が「いじめ問題などへの対応」として提起した結果だ。戦前の「修身」復活とも言われ、キリスト教学校として看過できるものではない。かけがえのない個としての存在を受けとめる教育とはかけ離れた内容だ。

見出しのタイトルは、『子どもによる子どものための子どもの権利条約』（小学館、一九九五）の一節。アムネスティ日本支部主催「子どもの権利条約翻訳・創作コンテスト」最優秀賞作品の一節だ。以前勤務していたキリスト教学校の中学二年生二人組が受賞した。監修は谷川俊太郎さん。難解な条文が、平易な言葉と良いテンポで表現されている。

第一四条「とりあえず、何考えてもいい」など、どの子も伸び伸びと生きられるよう「子どもの権利」が高らかに謳われている。ホームルームの時間に中学生によく読み聞かせたが、朗読している私自身も解放感とパワーに満たされた。在校生による翻訳ということもあったが、ティーンエイジの生徒たちにとってはかりとした権利意識をもってほしいと願っていた。

『私たちの道徳』には、公共心・公德心・弱さの克服・郷土愛・日本人としての自覚といった言葉が随所に躍る。公德心？中

学生が使う言葉とは思えない。最も問題だと思うのは、「好きな異性がいるのは自然なこと」との見出しだ。LGBTの生徒への配慮は見られない。苦悩する生徒を教科書が更に追い詰める。

日本には、二一〇万もの外国籍の人々が暮らし、その子どもたちも通学している。文化や肌の色の違いを超えて共に生きるために必要な教育は、画一的な愛国心教育でないことは確かであろう。

子どもたちに「良い子」を求め、協調や和を提唱してもいい。じめはなくならない。違いを認めず、異質な存在を排除する方向へと誘導しているに過ぎない。人は生き方を選択する上で、「多いもんにしたがう必要はない」し、マイノリティの自由や人権は重要だ。第一四条は「ぼくら子どもは、どんな考えをもってもいい、これがいい、これが正しいって思うものが、ほかの人と違ってたつていい」と続く。ある意味では思想・良心・信教の自由につながる視点だ。多様性を豊かさとして認めたい、受容しあうことを平和的共存への一歩としたい。「多いもんにしたがう必要はない」と背中を押してくれる寛容さ、伸びやかさが子どもたちには必要だ。

（ひき・あつこ）日本キリスト教協議会教育部総主事、全国キリスト教学校人権教育研究協議会運営委員・副会長

生きる喜びを伝える希望の倫理学
大嶋重徳著

自由への指針

「今」を生きるキリスト者の倫理と十戒



川崎公平

おもしろい。読み出すと止まらない。本書をお読みになって、もしも「そうは思えない」と感じられたならば、はじめに最初の頁から順序よく読むのではなく、気になる章から読み始めてもよいかもしれない（著者自身もそのことを期待しているようだ）。きつと多くの方が、私と同じように、つい読みふけてしまおうという経験をなさるに違いない。

本書は、キリスト者学生会（KGGK）総主事である著者が、常日頃若い世代のころに向かい合いながら、しかしおそらくすべての世代に読んでほしいと願って書かれた書物である。十戒の第一戒から第十戒まで一章ずつ、それに先立って序論があり、全二一章から成る。十戒に関する基本的な事柄が、かなり丁寧におさえられている。私がぜひお勧めしたいのは、ただひとりで読むだけでなく、誰かと対話しながら本書を読んでもることである。たとえば、教会の集まりで読書会を試みたらどうだろうか。少ない頁数の中に非常に豊かな内容が盛り込まれている。どれほど豊かな語り合いが生まれるだろうかと思う。

もともとキリスト者学生会の主事会主催セミナーで、十回の

連続講演をしたものが本書の原型となっている。その後、十名を超える人たちが集まって講演原稿の検討会をしたらしい。その意味では、本書は著者ひとりの著作ではなく、多くの人との対話から生まれたものである。それだけに、言葉がよく磨き上げられている。読めば分かる。教会に生きる者の（ほんね）、この国に生きる者の（ほんね）を（いい意味で）よく聞き取りながら、世界と教会の現実と深く対話しつつ、しかも神学的に考え抜かれた言葉として整えられている。

「自由への指針」。この書名に本書の姿勢がよく現れている。

「十戒をはじめとする律法は、人間を縛り付けるために与えられたものではありません。むしろ、私たちが自由へと解き放つために与えられた、良き知らせなのです」（五頁）。神は既に、私たちが自由へと解き放ってくださいました。そこに生まれてくるはずの生活の姿を、本書はたいへん具体的に、また率直に説く。「十戒が私たちに求めてくるものは、『福音の生活化』『信仰の生活化』です」（二二頁）。私たちの信仰が心の問題、内面の問題だけのことであってはならない、と言うのである。「そ

んなことは、言われなくても分かっている」という感想もあるかもしれない。けれども本書を読むと、その私たちの〈生活〉というものが、実に大きな広がりを持っていることに気づかされる。第二戒「偶像を造ってはならない」の説き明かしにおいては、偶像を生み出す私たちのころ、ひいては日本の国家権力に対する戦いの姿勢が明確である。第四戒「安息日を聖とせよ」の章でも、やはり神の与えてくださった安息日の祝福を信じ得ないこの国の〈働き過ぎの罪〉を撃つ言葉が鋭く語られる。また第九戒「隣人に対して偽証してはならない」では、インターネットの発達によって情報のやり取りが簡単になったために、ますます偽証の罪は深刻な姿を見せていると説く。

「十戒本文の『してはならない』とは、同時に『してなくとも生きることができ』自由なる生き方を語ります。そしてそれ以上に、『をしないこと』で生み出される神の国の文化』を形成する者へと私たちを導こうとしてくれるのです」（三一

―三二頁）。私たちは、今はもう、他者を殺さなくても生きていける。人のものを盗まなくても生きていける。誰かを貶めるために偽証しなくても生きていける。神に愛されているからである。まさに「自由への指針」である。けれども本書は、そこからもう一歩踏み込む。〈神の国の文化形成〉である。「殺さなくても生きていける」と信じ、そのように生きるキリスト者の存在が、〈殺さない社会〉を形成していく力を持つ。すべての章においてこの姿勢は明確である。

この日本に神のご支配を打ち立て、真実の自由をもたらすこと。この願いを込めて本書を著した著者が、しかも特に若い人たちのために献身しておられるのだと思うとき、この奮い立つものがある。すべての人の魂の再生のために、この国の霊的再生のために、本書をここからお勧めしたい。

（かわさき・こうへい 日本基督教団鎌倉雪ノ下教会牧師）
（四六判・二二二頁・本体一六〇〇円＋税・教文館）



大崎節郎著作集

第七巻 説教集（全7巻）

大崎節郎
Setsuro Osaki



バルト研究で知られる
教義学者による福音的説教。

いくつかの教会で折々に語られた
励ましに満ちた説教。
神の恩寵の選びの確かさを
憶えさせられる。

〈全巻完結〉

菊判・上製・函入・内容案内進呈
定価 [本体 7,600 + 税] 円
ISBN978-4-86325-088-8



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

降誕の真実を知る痛みと大いなる喜び
及川 信著

イエスの降誕物語
クリスマス説教集



白 正煥

及川信牧師の八冊目の説教集『イエスの降誕物語』が刊行されたことを大変嬉しく思う。これまでのものがそうであったように、この度の説教集も収録されている一五の説教のどこを読んでも深い聖書理解と人間理解に基づいていることが分かる。そして両方の狭間で必死に神のみ旨を聴き取り、聴衆の魂に届く研ぎ澄まされた言葉で語っている。読む度に神の深い愛に触れ、心痛み、涙しながら悔い改め、そして心底から湧きあがる喜びを覚える。このような説教集を再び手にすることができるのは、毎週の説教準備に追われる者にとっては大きな励ましとチャレンジとなる。

この本が刊行されたことを知り直ちに取り寄せ、主日礼拝後に礼拝出席者に紹介した。その週の半ば、夜の聖書研究祈禱会に出席している一人の姉妹が目を通って「及川先生の説教集、会社への行き来の電車の中で読んでいてあと少しで読み終わりますが、読む度に涙が出て困るのです。だって先生はイエス様のことを『神様のはらわた』と言っていますよ。……自分が今までクリスマスをどんなに勘違いしていたか……」と必死

に涙をこらえながら感想を言ってくれた。この人だけではない。私が仕えている教会に集う多くの人も同感である。毎回のことであるが、今回も感想を語り合う人々によって説教集はどんな人へと広がり、実に礼拝出席者の半数ほどの人が喜んで買って読み、そのうちの何人かは感想を聞かせてくれた。

こういうことを書くと、教会員の中で及川牧師がいる教会の方に移る人もいるのではないかと心配する人もいるかも知れないので老婆心から申し添えておくと、その反対である。信仰が深められ、自分が属している教会で熱心に信仰生活をしている。聖書を解き明かす優れた説教は、信仰者を生かし、教会を生かしていることを実感している。主任担任教師一人の教会が多い日本の教会において、その教会に集う信徒は聖書の解き明かしをその教会の牧師だけに寄り頼らざるを得ない。しかし一人だけではなく、二人でも二人でも多くの説教者による解き明かしに接することは礼拝出席者の信仰をより豊かにするのではないかと思っている。現実的に複数体制が難しい教会において、優れた説教集はみ言葉による教会形成を目指し孤軍奮闘している

牧師にとつては大きな援軍となる。私が礼拝出席者やその他家庭集会などで出会う人々に及川牧師の説教集を薦めるのはこのような理由からである。

さて、この度の説教集に収まっているマタイとルカの二つの福音書からなる一五の説教は、及川牧師が仕えている中渋谷教会の待降節と降誕節において語られた説教である。及川牧師がどのような思いでクリスマス説教に臨んだかを「あとがき」に記しているのここに引用しておく。

「世の中のクリスマスは『甘すぎる』と……皆、古い自分を喜ばせすぎ。聖書を読めば、クリスマスとは神ご自身が危険な旅に一步を踏み出したことである。神様がその在り方を変えたのだし、御子も十字架への歩みを始めたのである。それは必ず罪人の一人として死ぬことを意味する。その御子を我が身に迎えるクリスマス（キリスト礼拝）が、

家族や恋人、あるいは友人たちが会って楽しむだけであるはずがないではないか」。

いずれの説教も隠して見ようとしてもしない人間の深い闇のところを抉り出している。だから浮かれた気持ちで聴ける（読める）説教ではない。しかし、その説教を聴きたがる人々には多い。本当に直視すべきことは何であり、直視した時、深い喜びがあふれることを感じるからである。そういう説教である。退院後、月二回の頻度で講壇に立ち、み言葉の解き明かしに全力を尽くしている及川牧師を用いておられる神に感謝し、先生のリハビリの日々が守られますように切に祈る。

（べく・ちよんふあん 日本基督教団用賀教会牧師）
（四六判・二八〇頁・本体二一〇〇円＋税・教文館）



新刊



古代オリエント
研究の地平

小川英雄先生傘寿記念
献呈論文集刊行会 編

●A5判上製 ●定価：3,000円＋税

エマルの寡婦（日本昭男）／北イスラエル王国時代末期の歴史的研究序説（長谷川修一）／記録管理文書としてのアッシリア王室書簡（伊藤早苗）／古代パレスティナにおける魚醤の利用（牧野久実）／ローマ時代のコインに刻まれた運命の女神（江添誠）／エジプト語における文連鎖（永井正勝）／初期イスラーム時代のナバテア人（徳永里砂）／パレスチナ自治区ブルジュ・ベイティン遺跡の塔の機能と年代（杉本智俊）／他4篇を収録。

ISBN978-4-86376-051-6

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区三崎町2-9-5-402
FAX 03-3238-7638

「寄留者」^{ストレンジャー}

W・H・ウィリモン、S・ハワーワス著
東方敬信、平野克己訳

教会を通り過ぎていく人への福音 今日の教会と説教をめぐる対話



芳賀 力

チャレンジングな説教集である。本書は、分かりきつた当たり前の事柄をありきたりの言葉で語ることをよしとする説教者に挑戦してくる。福音とは説教者が飼ひ慣らすことのできない異質な、それ故躓きや驚きが起こる新しいものだというものを教えてくれる。そしてまた本書は、すでに自分が知っていると思ひ込んでいることを是認してもらうために教会へやってくる説教の聴き手たちに対しても挑戦する。福音は自分の個人主義的な願望や小さな世界観の是認ではない。説教は私たちに変革を要求してくる。

この本はデューク大学のチャペルで説教者ウィリモンが行った十編の説教を、友人である神学者ハワーワスが批評するという形で成立した。ウィリモンの説教にはハワーワスの神学がこままておき、ハワーワスの神学はウィリモンの実践を通して現実化している。大学チャペルに集う人々は学生と観光客であるが、それは今日のキリスト者にふさわしいメタファーになっている。彼らは一回だけ出席し二度と来ない。匿名のままいられ、他の人々と交流せず、信仰と深く関わることなく去るこ

とができる。今日ほとんどの教会の説教は「教会を通り過ぎていく人々」(ストレンジャー) に対してなされているのである。しかし聖書がもし聖書自身の内部から語られるならば、その「テキスト内在性」は力を発揮し、転換と回心をもたらすはずである。たとえば使徒言行録一六・一六―一四〇が明らかにしていることは、占いの女奴隷を商売に使う、最初は自由に見えた人々が、実は利益社会の捕らわれ人であったということであり、逆に福音のために牢獄に捕らえられたパウロとシラスたちが実に自由な人間であったということである。「パウロとシラスが鎖に繋がれながらも自由だったのは、自分たちの人生を捉えている物語が真理だと彼らが知っているからです。したがって、この使徒言行録のテキストはこの世界を完全に別の視点から見たものなのです」(五二頁)。説教はこの「完全に別の視点」、この世からは異常と思われる神の正常さをこそ明らかにしなければならず、日曜日の礼拝は聴く者をおの神の異常なまでの正常さへ引き続ける行為である(六五頁)。それは危険な旅ではあるが、そこへと踏み出さなければ生まれ変わる道はない。

「わたしの信仰は、わたし自身のささやかな内なる声なの」と語るシーラという女性にあやかって、現代のアメリカはこのシーライズムに席卷されていることに両者は警鐘を鳴らす。信仰が個人的見解に成り下がっている。しかし私たちは聖徒の交わりへと招き入れられた終末論的聖徒として歩むべきなのである(一一二頁)。

時にはハワーワスの辛辣な指摘もある。たとえばウィリモンはナオミとルツの物語を、様々な困難に直面する普通の家族の物語として描写する。そして神は普通の人々を通してこそ働かれるのだと強調する。しかしハワーワスは言う。肝心の問題は、ルツが姑のナオミに普通に忠実だったということではなく、彼女がメシアを生み出すイスラエルの民になろうとしたこと、つまり異邦人が救いに用いられるということであると。「われわれが『普通の人々』を称賛するのは、『普通の人々』そのままではなくて、彼らが神の国に仕えるようにされていることが神

学的に明らかにされる場合に限られるのです」(一一四頁)。本書は、「日曜日」ごとに『ただ通りかかっただけ』の人たち、わたしたちと共通の物語や伝統を持たず、物語も伝統も持たないということだけが自分たちの共通点である観光客たちに説教するとは、いったいどういうことであるか」を、さらに考え続けるように促している。それは特に日本人という「寄留者」である私たちにとってチャレンジであり続けている。論者としてはその上で、ただオールドナティヴを対立的に強調するだけでよいのかという根本的な問いを持っている。むしろそこには深い仕方での成就という面もあるのではないか。そうであれば、この立場は分派的な世界からの撤退型になり終わる。ともあれチャレンジを受け止めつつ、訳者方の労苦に心から感謝したい。

(はが・つとむ 東京神学大学学長)
(四六判・二四二頁・本体二〇〇円＋税・日本キリスト教団出版局)

THE FIRST CHRISTMAS クリスマス



ヤン・ピエンコフスキー [絵]
木原悦子 [文]

イギリスのすぐれた絵本に対して与えられる、ケイト・グリーンナウェイ賞を2度受賞した絵本作家が贈る、イエス・キリスト降誕ものがたり。背景から浮かびあがる繊細な切り絵が降誕の喜びを描きだす。子どもも大人も楽しめるクリスマス絵本。

A4判変型 上製・24頁・1,620円

キリスト教信仰の基本を知る・学び直すシリーズ、完結!

信仰生活の手引き 全5巻

祈り 左近 豊

旧新約聖書に深く学びつつ、神への嘆きさえ祈りであり、「祈ること、それ自体が救いである」という著者渾身のメッセージを浮き彫りにする。

四六判 並製・160頁・1,404円

子どもが豊かな人生を歩む道はどこにあるのか

希望の教育へ 子どもと共にいる神

レギーネ・シントラー 深谷 潤 訳
スイスの著名な児童文学者が、子どもを囲む世界を丁寧に見つめ、ひとつの宗教に根差すことで広がる希望を語る。

四六判 並製・272頁・3,888円

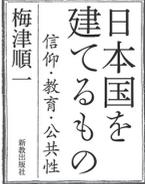
日本キリスト教団出版局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eigyoku@bp.uccj.or.jp 《価格8%税込》

http://bp-uccj.jp

今日の日本の教会と社会への励まし書
梅津順一著

日本国を建てるもの 信仰・教育・公共性



山口陽一

青山学院院長・キリスト教学校教育同盟理事長の梅津順一先生の、学識に裏打ちされた滋味豊かな講演集である。一九九四年の聖学院におけるキリスト教文化学会での講演から、二〇一五年の国際基督教大学（ICU）での講演まで、10の講演が時系列ではなくテーマ別に配置されている。

第一部「明治日本とキリスト教」

1章「マクレー博士の中国伝道——日本上陸以前」と2章「本多庸一と明治日本」は青山学院での講演。メソジスト監督教会初代監督のマクレーは、日本伝道開始以前の二十六年にもおよぶ中国福州での伝道においてキリスト教信仰の社会的な意味を意識し、中国の国家建設をも視野に入れていた。二代監督の本多庸一は「国士」、すなわち日本国の将来を考え、日本国のために働くことを使命と考えた人物であり、青森県会議長、東奥義塾・青山学院院长、牧師として、神の国の国士、文明国の国士だったと評価する。3章は梅津氏の母校ICUでの講演「平民道徳」とキリスト教——徳富蘇峰の福沢論吉批判」。徳富は、福沢の「物質的知識の教育」を批判しキリスト教を基盤とする

新島襄の「精神的知識の教育」、平民社会の道徳の教育を急務とした。ここでは福沢が米国ブラウン大学学長フランシス・ウーランドの『道徳学原理』を参考にキリスト教抜きで道徳を建てたことが入念に語られる。こうして国を建てることに意を用いたキリスト者たちを評価した後、本書の表題ともなる第4章「日本国を建てるもの——内村鑑三不敬事件」再考」が扱われる。「日本国の天職」は西洋文明と東洋文明の媒介者となることであり、「真正の日本人」は国家を超えた座標軸を持つ人であると考えた内村について梅津氏は言う。「日本国を天壤無窮と見ないこと、日本国を世界の中心であったり永遠なものとして見ないことを訴え、国家を超える座標軸を求めた」、「国体護持の名の下に、自由な構想を閉じ、飼い犬のような、ただただ従順な日本人になつてはならない」、「日本国を建てるのは、日本「国体」の儀礼ではなく、戦後憲法の自由である」。浜松での2・11集会で語られた講演は熱を帯びる。

第二部「日米のキリスト教」

「アメリカのキリスト教と世俗化——歴史的素描」、「日

本のキリスト教と大学——過去と現在」（青山）、「戦後史の中の

リベラルアーツ・カレッジ——古屋安雄の神学的著作を読んだ」（ICU）、「戦後70年、日本のキリスト教と大学はどこへ行く」（ICU）。ここでは、リベラルアーツ・カレッジとして聖職者の養成から始めたアメリカの大学が世俗化し、学問探求と社会への貢献に変化してゆく過程と、日本のキリスト教大学の成り立ちと発展が語られる。得難い日米キリスト教大学史概観である。入植期にハーバードやイエール、一八世紀中葉の第一次信仰復興期にプリンストン、一九世紀前半の第二次信仰復興でカレッジは一八〇校にもなり、海外伝道が推進される。日本では戦前に同志社、立教、関西学院が大学となり、現在では五十五校を数える。高級実務家の促成栽培をめざす日本の大学教育の中で、キリスト教大学のリベラルアーツによる人間教育が対置され、「内村鑑三不敬事件」一面では、アメリカ流のリベラルアーツ教育の排斥と解釈できる」といった慧眼が随所に顔を覗かせる。

第三部「信仰なき市民社会への挑戦」

東京神学大学学生会に招かれての講演「体験的日本伝道論——信徒として、一社会学者として」と、キリスト教文化学会における「神学なき社会科学、信仰なき市民社会——近代日本への一視点」。前者の「近代日本とキリスト教」は、社会学者による日本キリスト教史の把握として多くを教えられた。

二一世紀の日本において市民倫理を支えるものは何であるか。「東アジアの伝統的な人間学とキリスト教を結びつけることは可能なのか」という未解決の問い（二四六頁）を残したまま、キリスト教信仰を除いた近代日本（福沢流）の「神学なき社会科学」、「信仰なき市民社会」が、神の代わりに「国家」という疑念的な超越物を持ち出さざるを得ない問題点を指摘して本書は閉じられる。今日の日本の教会と社会への励ましと警鐘の書である。

（やまぐち・よういち）東京基督教大学大学院教授
（四六判・三六〇頁・本体二八〇〇円＋税・新教出版社）



従順という心の病

絶賛発売中！

A・グリーン村椿嘉信訳 私たちはすでに従順になつてゐる
従順の問題点！ 従順であるとは、「他者の意志への屈服」である。この場合、他者は、被抑圧者に対して、「権力」を行使している。この抑圧は、乳児期に、つまり言語や思考を身につける以前に始まる。……最終的に、自分で考え、自分で判断することを不可能にする。現代に巣くう従順にメスを入れる話題作！ ●800円＋税



私は戦争のない世界を望む

アルノ・グリーン村椿嘉信・松田眞理子共訳
富田正樹氏・評「なぜ戦争が起こるのか」「どうすれば戦争を避けることができるか」「戦争や暴力を容認する文化や人間性を深層にあるものを心理学的に分析し、「なぜ戦争を企てる政治家が現れるのか」、また「なぜ自分は自由で民主的だと思つていて一般市民が戦争を企てる野心家を指示してしまうのか」について説明し、戦争をやめるためにはどうすればいいかを考えている本です。 ●四六巻型判・一九六頁・九〇〇円＋税

株式会社ヨベル YOBEL Inc.
お問合せは info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
*自費出版の専門出版社*資料・星

「核」使用の未来世代への責任を問う
栗林輝夫、内藤新吾、河合弘之ほか著
富坂キリスト教センター編

原発と宗教
未来世代への責任



森野善右衛門

本書は、富坂キリスト教センターの「原発と未来世代への責任研究会」の二〇一三年から二〇一六年にかけての研究成果をまとめて一書としたものである。

この研究会は、チェルノブイリ原発事故（一九八六年四月二十六日）の後に発足した「自然・科学技術・人間」研究会を継承するもので、キリスト教社会学倫理の学際研究として、さまざまな専門領域の人たちの協力を得て、「脱原発と未来世代への倫理的責任」についての検証を行っている（担当主事・岡田仁氏の「はじめに」から）。

巻頭におかれている論文「核開発とキリスト教——（テクノロジーの神学）の視点から」の著者栗林輝夫氏は、「荊冠の神学——被差別部落解放とキリスト教」（新教出版社、一九九一年）で著名な神学者だが、二〇一四年一月二十五日、第三回研究会での本発表後の翌二〇一五年に亡くなられた。ここでは技術神学の視点から、原子力と原発についてのいくつもの異なる評価が取り上げられていて、示唆的かつ論争的な論文である。

内藤新吾氏「宗教者として問う原発問題の深層」、河合弘之

氏「原発と宗教と倫理」、吉田由布子氏「放射能汚染が未来世代に及ぼすもの——チェルノブイリから学ぶ」、山田真氏「福島原発事故の医学的な問題」、新藤宗幸氏「制度としての『原子力ムラ』」、山口幸夫氏「未来世代のひとたちへ」、兼松秀代氏「だまして進める核のごみ処分場——岐阜県瑞浪超深地層研究所の経過と現状」、西岡由香氏「原爆・原発・再生可能エネルギー」、中島哲演氏「核のない社会 望見」、安田治夫氏「新たな文化哲学へ向けて、シユベングレー以後——神学の究極課題としての原発問題」

全体で十一の寄稿文が並び、それぞれの視点から「原発問題」の現状と課題、未来社会への展望が考察されていて示唆的である。

そして終わりに、執筆者八名による座談会で「原発と宗教」をテーマとする対論がまとめられていて興味深い。本書を手掛かりとして、たとえば以下のようなテーマでの話し合いが期待される。

1 「平和のための原子力」という言葉の内実の検討。一

九五三年十二月八日、国連総会でのアイゼンハワー米大統領の演説「平和のための原子力」（アトムズ・フォー・ピース）を受けて、六〇年代から日本に積極的に原発が導入されるようになり、そのためさまざまな「安全神話」が作られたが、それらの「神話」は二〇一一年三月十一日の東京電力福島第一原発事故によってすべて崩壊し、日本人には根本的な反省と考え直しが求められている。

「核兵器」と「原発」は、「軍事利用」と「平和利用」とに分けて考えることのできない、コインの表と裏のように一体のものである。根本のところではつながっていること、認識が大切である（内藤新吾）。

2 原発使用の根本的問題は、高レベル放射性廃棄物処理である。ほんの半世紀ほどの短い間「核の平和利用」の電力を享受した反面、十万年の長きにわたる「核の後始末」の方法に悩まされ、未来世代への「負の遺産」を残してよ

いのか（山口幸夫）。

3 戦後日本人の多くは経済第一で、倫理的視点が欠けている。戦後のドイツがフクシマ第一原発事故を教訓として、脱原発に大きく方向転換をしたことに学ぶべきではないか。「今だけ、金だけ、自分だけ」のような経済人が多くなかで、「それはおかしいではないか」と警告を発することができるのは宗教者であり、倫理学者なのでないかと思う（河合弘之）。

4 核兵器と原子力発電を含めて原子力を用いるということは、「自然破壊」につながり、自然と人間との共生のための創造秩序に対する「逆行行為」である。

「原子力と人間」の問題に関心のある読者に、一読をお勧めする。

（もりの・ぜんえもん）日本基督教団関東教区巡回牧師（A5判・二四〇頁・本体一八〇〇円＋税・いのちのことは社）

新刊

北森嘉蔵伝

その生涯と思想

丸久美子 [著]

北森嘉蔵伝
その生涯と思想

丸久美子

北森嘉蔵生誕100年記念出版
日本人が育んだ初の世界的著作
「神の御命の神学」はこのように
生まれ、受け入れられたのか。

世界的名著『神の痛み
の神学』は、いかにして生まれ、受容されていったのか。

A5判・2100円＋税

善美なる神への
愛の諸相

『フィロカリア』論考集

土橋 茂樹 [編著]

東方霊性の源泉『フィロカリア』の豊かさを浮き彫りにする論文集。 A5判・2900円＋税

21世紀神秘思想

エックハルトの霊性

W・イエーガー [著]

好評の講話集の後編。キリスト教と東洋的霊性の統合の試み。「神秘的一致体験」を求めて。 A5判・2000円＋税

●自費出版

お気軽にご相談下さい
教会史・説教集・論文集……文書
伝道にご奉仕します。高品質で
廉価な本作りを心がけています。

教友社

275-0017 習志野市藤崎 6-15-14
TEL047-403-4818 FAX047-403-4819
http://www.kyoyusha.com

コンパクトで有益な臨床情報が過不足なく、わかりやすく
石丸昌彦著

キリスト教カウンセリング講座ブックレット19
健康への歩みを支える
家族・薬・医者 の役割



白石弘巳

本書は、キリスト教カウンセリング講座ブックレットの一冊として、二〇一六年八月に刊行された。構成はタイトルの通り、「家族」「薬」「医者 の役割」の三部からなり、それぞれ関連する情報と著者の考えが展開されている。以下、本書の内容を概説する。

第一〜三章は「家族」の項である。まず、精神障害者家族の置かれてきた歴史的状況と現代家族の状況がスケッチされ、「私の家族とは誰か」というイエスの問いはきわめて現代的な問いでもあると結ばれる。続いて著者は、家族だからできることとして、①共に喜び、共に泣く、②祈る、③現にできていることを確認する、④話を聞く、などを挙げている。また、家族は病気の原因ではないが、偏見や発病後の接し方や回復を妨げることがあると説明した上で、家族の悩みは普遍的な問題であり、無理せず、試行錯誤を通じて学んでいけばいいと述べている。そのあとに、統合失調症、うつ病など代表的な疾患ごとに、具体的な関わり方のヒントが具体的に述べられている。第四、五章は「薬」の項である。まず、薬にはリスクが伴う

が、それでも服用するのは効果がそれを上回る場合であるとし、不安や不眠などの症状に対しては、薬に頼りすぎないことが大切であると説く。また、向精神薬の飛躍的進歩が精神療法や当事者活動を可能にしたことを明らかにし、薬物療法と精神療法は相補的、協調的な関係にあるべきことを論じている。その後、薬理学の基本的知識と、個々の向精神薬に関する簡にして要を得た説明が続く。最後に改めて、薬に頼りたくないという患者心理を肯定しつつ、薬は「頼るのではなく、必要に応じて使う」ことが大切であると結んでいる。

第六〜八章は「医者 の役割」の項である。まず、医者 と患者 関係について、今後は情報提供に基づき、共同意思決定（シェアード・デシジョン・メイキング）が求められると説明する。その上で、薬物療法は患者の医師に対する信頼感の有無により、薬理効果が左右される（プラセボ効果）ことから、薬物療法は「薬というツールを使ったコミュニケーション療法」であると喝破している。第七章は「医者 に上手にかかると」と題し、初診時の工夫や再診外来の活用法など、有益な具体的情

報が収載されている。第八章では、医者 の善し悪しの判断基準として、①診断、②疾患の特徴や治療方針、③処方 の目的とリスクなどについての情報提供が行われることや、話を受け止めてくれ、安心して文句が言えることなどを挙げている。第九章では、「その他の大事なこと」として、当事者活動、社会資源、身体や霊的な健康などにも触れられている。

以上、本書は、コンパクトで有益な臨床情報が過不足なく、わかりやすく述べられていることに加え、著者の貴重な臨床や教育現場での経験、浩瀚な文学的素養、信仰や思索に裏付けられた滋味あふれる見解が随所にちりばめられて、ガイドブックの域を超えた読み応えのある書物となっている。評者は、昨年石丸氏が監訳された精神障害をもつ人に対する偏見除去の方策を扱った本（邦題『パラダイムロスト』）の翻訳のメンバーに加えていただいた。その際、氏の一語一句をおろそかにしない翻訳姿勢や周囲への行き届いた配慮に接し、氏は優れた臨床家

であろうと想像したが、本書によって改めてそれを確認できた。本書のあとがきに、私も尊敬していた故・平山正実先生が当初本書を執筆される予定であったことが記され、代役はとても務まらないと謙遜されている。しかし、評者は、むしろ石丸氏らしさが色濃くにじむ本書が誕生したことを心より嬉しく思う。諸賢にも是非一読をお勧めしたい。

（しろいし・ひろみ）東洋大学ライフデザイン学部教授
A5判・一七〇頁・本体一六〇〇円＋税・キリスト新聞社

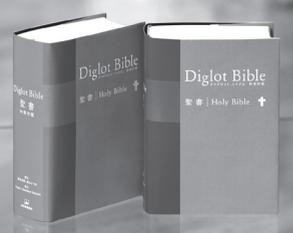
新しい
和英対照聖書が
できました。

日本語訳と英語訳の
理想的組み合わせ

総ルビ 和英対照聖書

ダイグロット
バイブル

Diglot Bible ダイグロット…
「2ヶ国語版」の意



English Standard Version **1**
聖書 新共同訳 総ルビ **2**

① 欽定訳の伝統を引き継ぐ、原典に忠実かつ格調が高い全世界で急速に愛読者が増えている、必読の英語訳「ESV」

② カトリックとプロテスタント諸教会、全国のミッションスクールで、圧倒的シェアを誇る「聖書 新共同訳」

●B6判 ●旧新約・3,120頁
●本文：約8ポイント ●総ルビ
●巻末カラー地図(日本語英語各7葉)つき
定価(本体)6,300円+税)

NIESV54DI ピンク
ISBN978-4-8202-1334-5

NIESV54DI ブルー
ISBN978-4-8202-1335-2

お求めはお近くの書店または

JBS 日本聖書協会
〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 聖書館ビル
TEL03-3567-1987 http://www.bible.or.jp/

本屋さんを選んだ お勧めの本

清光書店 柏川玲子

『ねえちゃん、大事に しいや。』

入佐明美著



1,000円+税
いのちのことは社

大阪釜ヶ崎でケースワーカーとして日雇い労働者の方々と共に歩んでこられた入佐明美さんの著書です。釜ヶ崎の実際の様子と、そこで出会った人々によって著者が自身と向き合い、「自分自身」と出会っていく過程が綴られています。

「自分に対して、もっとこうあるべきと思っっている時は、相手にもそう要求している」と著者は語ります。相手の弱さを受け止めるには、まず、自分自身の弱さに優しくなること。誰かの助けになるために「強くなければ」と、つい頑張りすぎている時に、肩の力を抜いて心をほぐしてくれる一冊です。

『うまくいかないとき にうまくいく!』

ささきみつお著



1,300円+税
小牧者出版

外側の情報や状況に振りまわされている……、なんだかうまくいかない……、そんな風に感じている方へお勧めします。

国際弁護士である著者が、その立場から、聖書の言葉によって問題を解決していく秘訣を、具体的な話を例にとつて語っているエッセイです。そう紹介するとなんともカタい感じがしますが、そうではありません。日常の中でつい陥りがちな考えや、抱きがちなマイナスイメージや感情とどう向き合い解決していったらいいのかを、気持ちにスッと入ってくる語り口で示してくれます。

神様にゆだねてあるがままの自分でいいのだ、と元気になる一冊です。

清光書店

〒951-8114 新潟県中央区営所通1番町313
TEL: 025-229-0656 (FAX同)

沖繩キリスト教書店

金城芳朗

『生きるユダヤ教』

勝又悦子、勝又直也著



2,500円+税
教文館

聖書の世界はユダヤ教の歴史を抜きには語る事ができません。イエス様も神殿に行き、「過ぎ越しの祭」をお祝いしました。私たちは、大まかにユダヤ教を知っています。細かいことは分からないのではないのでしょうか。たとえば、安息日にはやってはいけないことが何種類あって、開始と終了はどうやって決めるのか、「除酵祭」って一体どんなことをしていたのか……など。

この本を読むと、色々な式典をユダヤ教徒がなぜ大事にしていたかが理解できるようになります。そうすると聖書を読む時に、より歴史的な背景がイメージできますし、ユダヤ教への想いもまた違ってきます。さらに本書はタイトル通り、現代の生きるユダヤ教やユダヤ人の人生観に焦点を当てており、迫害の歴史や過酷な環境の中で生きる彼らの力強さについても知ることができます。

専門書なのですがとても読みやすく、写真や図表も豊富。読了後の満足感のみならず、自分たちの生き方も見つめ直す機会を与えてくれるお勧めの一冊です。

『アizziの 聖フランチェスコ』

藤城清治 影絵/著



4,300円+税
女子パウロ会

ハツとする程、美しい色彩を織り交ぜた影絵、読むたびに深い穏やかな気持ちにさせてくれる文章。藤城清治さんは、聖書を題材にした多くの作品を発表されているので、一度はご覧になった方も多いのではないのでしょうか。本書もページをめくるたびに、聖フランチェスコの神様と全ての被造物に対する大きな愛の心を知ることができ、またオオカミや鳥たちに説教したお話などが、まるで目の前で起こっているかのような錯覚すら覚えます。

聖フランチェスコは、「聖フランチェスコの平和の祈り」や「太陽の賛歌」で有名ですが、彼の慎ましく、素朴な生き方、神様への向き合い方は、私たちにとても信仰の大きなヒントになるはずです。何度でも読み返したくなる、迷ったらまた戻って元気づけられる。そんな素敵な本です。

沖繩キリスト教書店

〒903-0207 沖縄県中頭郡西原町字翁長777
沖繩キリスト教学院内
TEL: 098-943-7221 (FAX同)
E-mail: okinawachs@yahoo.co.jp
URL: http://www.okinawachs.com/

2016年6月号

巻頭エッセイ：文学は実学である 佐藤裕子		
日本のプロテスタンティズムの政治思想	柳父園近著、新教出版社	本田逸夫
インクルーシブ神学への道	鈴木文治著、新教出版社	関田寛雄
食材としての説教	北村慈郎著、新教出版社	本田哲郎
現代聖書注解 サムエル記上／下	W.ブルグマン著、日本キリスト教団出版局	宮井岳彦
地球共生社会の神学	東方敬信著、教文館	増田琴
新渡戸稲造と歩んだ道	佐藤全弘著、教文館	柴崎由紀
私のごすべるくろにくる	沢知恵著、新教出版社	深田未来生
新約聖書と神の民 上巻	N.T.ライト著、新教出版社	小林高德
キリエ	ヨッヘン・クレッパ著、教文館	川崎公平
その神の名は？	梅津順一著、教文館	近藤勝彦

2016年5月号

巻頭エッセイ：飛び散る火花 増田祐志		
キリスト教資料集	富田正樹著、日本キリスト教団出版局	鬼形恵子
暗い森を抜けて	ダンテ原作、新教出版社	佐藤裕子
近代日本の預言者	J.F.ハウス著、教文館	村松晋
翼をもつ言葉	W.ウイリモン著、新教出版社	小野静雄
会衆主義教会の使命	水谷誠監修、キリスト新聞社	吉岡恵生
神学の小径Ⅲ	芳賀力著、キリスト新聞社	芦名定道
大崎節郎著作集1 教義学論文集1	大崎節郎著、一麦出版社	多田滉
戒規対話か	北村慈郎牧師の処分撤回を求め、開かれた合同教会をつくる会編、新教出版社	森野善右衛門
平野恒	亀谷美代子著、大空社	兼子盾夫

2016年4月号

巻頭エッセイ：「追思考」の歩み 朝岡勝		
〈尊びの愛〉としてのアガペー	遠藤徹著、教文館	山本芳久
信じない人のためのイエス入門	J.S.スポンゲ著、新教出版社	関田寛雄
元始に言霊あり	ヘボン他著、キリスト新聞社	蓮見和男
小川修パウロ書簡講義録9前期論文集	小川修パウロ書簡講義録刊行会編、リトン	鈴木浩
霊性神学入門	小高毅著、教文館	阿部仲麻呂
海老名弾正	關岡一成著、教文館	山口陽一
ルターの十字架の神学	A.E.マクグラス著、教文館	加藤喜之
神が美しくなれるために	R.ボーレン著、教文館	小泉健
聖書の世界を発掘する	上智大学キリスト教文化研究所編、リトン	杉本智俊

『本のひろば』のバックナンバーをWeb上で閲覧できます。「キリスト教文書センター」のホームページから「書評誌『本のひろば』」にアクセスしてください。

<http://www.bunso.or.jp>

2016年9月号

書名	著・訳・監修者、出版社	書評者
巻頭エッセイ：修復的贖罪論の可能性を探る 河野克也		
信仰とは何か？	齋藤孝志著、ヨベル	小林重昭
信じることをためらっている人へ	岡野昌雄著、新教出版社	片柳榮一
エレメンツ 増補改訂版	ジュレミー・ダフ著、新教出版社	ランドル・ショート
キリスト教は女性をどう見てきたか	H.キュンク著、教文館	笹森田鶴
がん哲学外来で処方箋を	樋野興夫編著、日本キリスト教団出版局	榎原寛
アレテア ヘブライ人への手紙	日本キリスト教団出版局編	宮崎誉
中世における制度と知	上智大学中世思想研究所編、知泉書館	桑原直己
ヨハネス・ア・ラスコ	バージル・ホール著、一麦出版社	南純
ふたりのエアリアル	ノエル・ストレットフィールド著、教文館	さくまゆみこ
救済史と終末論	近藤勝彦著、教文館	牧田吉和

2016年8月号

巻頭エッセイ：後から気が付かされること 大宮謙		
だれもが知りたい キリスト教神学Q&A	G.M.バーク他編、教文館	大坂太郎
新島襄と明治のキリスト者たち	本井康博著、教文館	太田愛人
使徒行伝 下巻	荒井献著、新教出版社	今井誠二
イエスは何語を話したか？	土岐健治他著、教文館	原口尚彰
キリスト教人間学入門	金子晴勇著、教文館	芦名定道
「石井筆子」読本	津曲裕次著、大空社	杉山博昭
教会では聞けない「21世紀」 信仰問答Ⅲ	上林順一郎監修、キリスト新聞社	古賀博
自分を知る・他人を知る	賀来周一著、キリスト新聞社	関谷直人
聖書を伝える極意	平野克己監修、キリスト新聞社	森下滋
闇の勢力に抗して	内坂晃著、教文館	関田寛雄
Thy will Be Done	聖和史刊行委員会編、関西学院大学出版会	戒能信生

2016年7月号

巻頭エッセイ：キリスト教教育の担い手 高橋潤		
雪に閉ざされて	ホイットニア著、新教出版社	柴崎聡
3・11以降の世界と聖書	福嶋裕子他編著、日本キリスト教団出版局	並木浩一
ルワンダ 闇から光へ	竹内緑著、日本キリスト教団出版局	神田英輔
死者の復活	T.ピーターズ他編、日本キリスト教団出版局	芦名定道
律法の彼方に	小原福治著、キリスト新聞社	笠原義久
白い鹿	ヨゼフ・ドミヤン版画／押田成人詩、日本キリスト教団出版局	若松英輔
新約聖書解釈の手引き	浅野淳博他著、日本キリスト教団出版局	河野克也
雑草庵日記	大沼潤子著、日本キリスト教団出版局	佐藤司郎
説教への道	加藤常昭著、日本キリスト教団出版局	後宮敬爾
中心を見定めて生きる	柳澤嗣世著、キリスト新聞社	深井智朗
教会と戦争	川端純四郎著、新教出版社	小海基
エラスムス神学著作集	金子晴勇訳、教文館	加藤武
砂漠に引きこもった人々	戸田聡編訳、教文館	久松英二

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jp-shop.com	sasaki@jp-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用	http://www7.ocn.ne.jp/~zen-book/	zenrinkan_syoten@yahoo.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台市青葉区3-6-136 教団センター・I771F	022-223-2736	共用	http://www7.ocn.ne.jp/~zen-book/	fqcwk524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	〒新中延館5-2-2 恵泉キリスト教センター	043-238-1224	043-247-3072	http://www.kyobunkwan.co.jp	keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書局	350-1331	埼玉県狭山市新狭山1-5-1	042-900-2771	042-900-2722	http://www.bible.or.jp	seikoshoten@bible.or.jp	
アバコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	03-3333-6378	http://taishindo@icom.home.ne.jp	taishindo@icom.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス南青山	107-0062	東京都港区南青山5-10-2	03-6418-5230	03-6418-5231	biblehouse@bible.or.jp	biblehouse@bible.or.jp	
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www7.biglobe.ne.jp/~yohatana.cds/index.html	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市宮所通一番町313	025-229-0656	共用	http://www7.biglobe.ne.jp/~yohatana.cds/index.html	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	info@s-seibun.co.jp	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://homepage3.nifty.com/seibunsta/	nagoya-seibunsta@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東1ル	075-211-6675	075-211-2834	http://www.geocities.jp/masujama_1007/mexjim/	kiJordan@mbox.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0002	大阪市北区曾根崎新地2-1-15	06-6345-2928	06-6345-2187	http://osakiacts.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
バイブルハウスびぶるの森	591-8041	堺市北区東雲東町1-1-16	072-257-0909	072-253-6132	http://osakiacts.web.fc2.com/	sakai-jbs@bible.or.jp	00960-9-47426
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	078-331-9933	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	hseibun0951@yahoo.co.jp	01150-7-45120
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島町3-57-1	088-633-6335	共用	http://www.geocities.jp/masujama_1007/mexjim/	tokushoten@shirt.ocn.ne.jp	01630-5-37119
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.geocities.jp/masujama_1007/mexjim/	sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上雷野5-2-18	093-967-0321	共用	http://kcbook.net/	kcbookcenter@ybb.ne.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484			01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用			017304-45044
沖繩キリスト教書店	903-0207	中頭郡読字線777 沖縄キリスト教団	098-943-7221	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283

※一般書店関係の方は、日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

既刊案内 (2016年8月~9月) (定価はすべて本体価格+税)

著 訳・編 者	書 名	判型	頁	本体価格	版 元	発行日
大 嶋 重 徳	自由への指針「今」を生きる キリスト者の倫理と十戒	四六	212	1,600	教 文 館	8/20
キリスト教史学会編	近代日本のキリスト教と女子教育	四六	192	2,400	〃	8/30
飯 靖 子 志 村 拓 生 演 奏	CD版 讚美歌21による 礼拝用オルガン曲集 —第4巻礼拝の時と教会暦1	C D	44曲	1,800	日本キリスト 教団 出版 局	8/9
D.L.ミグリオリ 著 下 田 尾 治 郎 訳	現代キリスト教神学 上 —理解を求める信仰	A 5	346	4,200	〃	8/25
WHウィリモン、Sハワース著 東方敬信、平野克己訳	教会を通り過ぎていく人への福音 —今日の教会と説教をめぐる対話	四六	242	2,200	〃	8/25
梅 津 順 一	日本国を建てるもの —信仰・教育・公共性	四六	360	2,800	新 教 出 版 社	8/25
山 谷 省 吾 著 荒 井 献 解 説	基 督 教 の 起 源	A 5	740	6,800	〃	8/25
石 丸 昌 彦	キリスト教カウンセリング講座ブックレット19 健康への歩みを支える —家族・業・医者への役割	A 5	170	1,600	キリスト新聞社	8/25
鈴 木 明 子	うたであそぼう あそびうた 50	B 5	112	1,500	ヨ ベ ル	8/22
大 崎 節 郎	大崎節郎著作集 6 —実践神学関係	菊判	480	7,000	一 麦 出 版 社	8/1
及 川 信	イエスの降誕物語 —クリスマス説教集	四六	280	2,100	教 文 館	9/15
近 藤 勝 彦	キリスト教弁証学	A 5	664	5,800	〃	9/30
荒 瀬 牧 彦 松 本 敏 之 監 修	そうか! なるほど!! キ リ ス ト 教	A 5	136	1,500	日本キリスト 教団 出版 局	9/20
小 田 部 進 一	ルターから今を考える —宗教改革500年の記憶と想起	A 5	258	2,500	〃	9/25
ベルトール・クラッパート著 武 田 武 長 編	ソクラテスの死とキリストの死 —日本における講演と説教	四六	332	3,200	新 教 出 版 社	9/16
原 口 尚 彰	ローマの信徒への手紙 上巻	A 5	270	4,600	〃	9/26
武 藤 富 男	社 説 三 十 年 —わが戦後史 第一部 昭和21年-昭和30年	A 5	524	4,000	キリスト新聞社	9/26
ルター研究所編	『キリスト者の自由』を読む	B 6	146	1,000	リ ト ン	9/30
小川英雄先生傘寿記念 献呈論文集刊行会編	古代オリエント研究の地平	A 5	289	3,000	〃	9/30
木 下 和 好	聖書の教える 金持ち父さん貧乏父さん50	新書	168	1,000	ヨ ベ ル	9/8

一麦出版社

http://www.ichibaku.co.jp/
携帯サイト mobile.ichibaku.co.jp/



Ichibaku Shuppansha Publishing Co., Ltd.



植村正久
大森教会「福音道志誠部」現代語訳委員会 訳
福音道しるべ

四六判 定価(本体850+税)円
ISBN978-4-86235-079-6

君に届け! 27歳, 青年植村, 現代の言葉で福音を語る。



日本キリスト改革派教会
日本キリスト改革派教会宣言集

A5判 定価(本体2,400+税)円
ISBN978-4-86325-092-5

教会形成と福音宣教に大切な教理を明確に表明。



ルーカス・フィッシャー
吉岡契典 訳
長老職

改革派の伝統と今日の長老職

A5判 定価(本体2,000+税)円
ISBN978-4-86235-065-9

神の言葉のもとで, 教会を治める働き。

▶マッキー『執事職』定価(本体2,000+税)円



マックス・ツェルヴェーガー
渡邊恵子 訳 著
バルトこぼればなし

A5判変型 定価(本体1,800+税)円
ISBN978-4-86235-059-8

娘婿が見た愉快なバルト。訳者自身の身近な人々へのインタビューも加えて詳らかになる素顔。

バージル・ホール
堀江洋文 訳・解題

ヨハネス・ア・ラスコ
1499-1560

イングランド宗教改革のポーランド人

四六判変型 定価(本体2,200+税)円
ISBN978-4-86235-095-6



カルヴァンが理想とした長老制による教会訓練, 国家権力と関わりのないかたちの教会として最初の「教会規程」を執筆。

ジェームス・B・トーランス
有賀文彦・山田義明 訳

**三位一体の神と
礼拝共同体**

A5判 定価(本体2,400+税)円
ISBN978-4-86325-075-8



神の命にあずかる礼拝となるためには, どのような神理解に基づいて形づくられるべきか。

大崎節郎著作集

第一巻 使徒信条講解

全七巻完結

菊判 定価(本体6,000+税)円
ISBN978-4-86325-082-6



第一巻は渾身の書き下ろし「使徒信条講解(教義学要綱)」その詳細な講解は, 教義の根本となる重要事項の詳述でもある。



©JELC

日本福音ルーテル教会 宗教改革500年記念事業推奨図書

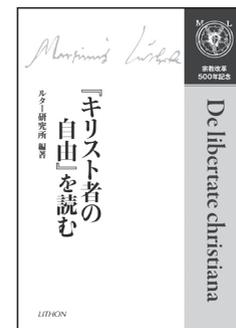
ルター研究所 三部作



アウグスブルク 信仰告白

メランヒトン著 ●ルター研究所訳
●B6判並製 ●定価: 1000円+税

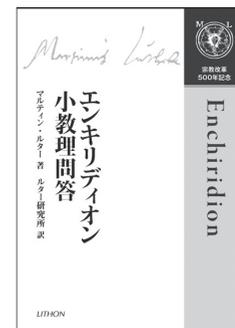
宗教改革期に, ルター派, 改革派, 急進派は次々に信仰告白文書を明らかにした。本書は信仰告白文書の最初のものであり, ルター派の信仰表明の根本的地位を占め, ルター派教会のアイデンティティーを規定している。解説では, 本書成立の背景と現代社会での意義について述べる。



『キリスト者の 自由』を読む

ルター研究所編著
●B6判並製 ●定価: 1000円+税

ルターの不朽の名著『キリスト者の自由』は, ルターが受けとめた聖書の教えを骨太に論理的に組み立てて論述し, 信仰者の生のあり方が整理され述べられている。また 500 年前の書物を我々が読むには, すべての現代人が共通に直面している課題という視点が必要であろう。



エンキリディオン 小教理問答

ルター著 ●ルター研究所訳
●B6判並製 ●定価: 900円+税

ルターがキリスト者, またその家庭のために著した『エンキリディオン(必携)』の新たな全訳。本書の歴史的意義とそれが現代社会に持つ意義については, 徳善義和ルーテル学院大学名誉教授(ルター研究所初代所長)による「まえがき」と巻末の「解説」により示されている。



ルターにおける 聖書と神学

キリスト教文化研究所編
●46判並製 ●定価: 2000円+税

二つの領域を生きる私たち(内藤新吾) / ルターの聖書解釈方法の特質(竹原創一) / ルター聖書と現代ドイツ教会(吉田新) / キリストの福音の伝承(川中仁) / ルターにおける「つまずきの石」と「神学的突破」(鈴木浩)

『ルター研究』別冊

ルター研究所編
A5判並製 各号 2000円+税
【各号の特集テーマ】

- 第一号 『宗教改革五〇〇周年とわたしたち』について
- 第二号 『エンキリディオン 小教理問答』
- 第三号 『アウグスブルク信仰告白』
- 第四号 『キリスト者の自由』

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区三崎町2-9-5-402 FAX 03-3238-7638

福音と世界

2016年12月号

特集 聖書をどう読むか

寄稿者 Ⅱ 廣石 望、木原桂二、大宮有博、東よしみ、小林昭博、平野克己

好評連載 アメリカの教会と神学の今（吉松純、現代神学の冒険（音名定道）、聖書素読（金必順）、

レイナスの時間論（内田樹）、新約釈義（第一、

テモテ書（辻学）、現代日本の福音（高橋優子）、

詩篇の思想と信仰（月本昭男）、ことばの履歴書（佐藤優）、聖書とわたし（奥田愛基）、ほか

A5判・本体588円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148

Email: sales@shinkyo-pb.com

編集室から

昼間は真夏のような暑さでも、日が傾くと涼しい風が吹き、季節が動いていることを感じさせる晩夏の頃、道路脇の狭い傾斜地、雑草の中に大輪の花を咲かせた百合を見つけた。

その一輪は唐突だがしっかりと、存在感をもって咲いていた。おそらく、どこから飛来してきた種がこの場所に着地して、環境に恵まれたのだろう。

旅行先でもらった山百合の種を育てようとしたことがある。

植木鉢に蒔いて、水をやり、日光に当てて、土が乾くとまた水やりを繰り返すこと二週間。まったく変化がないので、調べてみると発芽まで二年かかるとのことだった。子ども頃には比べるに随分忍耐強くなったかと思っていたが、土しか見えない鉢に二年間も水やりができるほどには達してないことを知っている。ので即刻挫折。迷わず断念。

最後に種の所在を確認しようと土を掘り起こしてみたが、砂に紛れた小さな種は、もう見つからなかった。

とにかく、簡単に咲かせることができない植物なのだ。

キリスト教において百合は、マリアの純潔や永遠の命の象徴としてもちいられる。聖画の受胎告知では、六枚の花びらが開いた様子を正面から描いて、ベツレヘムの星に見立てることもあるそうだ。先人たちによって考えぬかれた表現は本当に素晴らしいと思う。

夕暮れ前に出会った百合は、説明書きの横にあった写真の山百合に似ていた。発芽から開花まではさらに数年かかるらしい。今まで、ずっとそこにいたのだろうか。

一瞬、摘み取って持ち帰りたい衝動を覚えるが、やはり、我慢しなければいけないと思った。雑草が生い茂る場所に舞い落ちて、世話を受けることもなければ肥料も与えられない厳しい条件の中、天からの恵みだけで花をつけた。凛と逞しい、それでいて優美な姿は、まもなく訪れる冬へ向かって、みんなの希望となるために咲いているように見えたから。（吉崎）

本のひろば 2017年1月号 予告

本・批評と紹介・ヤン・ピエンコフスキー絵、木原悦子文『クリスマス』、木下和好著『聖書の教える 金持ち父さん貧乏父さん50』、ベルトール・クラッパート著『ソクラテスの死とキリストの死』、左近 豊著『信仰生活の手引き 祈り』、エドワード・M・パウンス著『二分間の黙想 祈りの力』、多摩美術大学編著『島の小さな教会』他

新教出版社

〒162-0814 東京都新宿区新小川町 9-1 Tel: 03-3260-6148 / Fax: 03-3260-6198
HP : http://www.shinkyō-pb.com, email : sales2@shinkyō-pb.com

人生を聖書と共に リチャード・ボウカムの世界



ボウカムは、新約聖書学から組織神学、キリスト教倫理にいたる広範な領域で開拓的な業績を上げてきた超人的学者である。冒頭に彼の信仰自伝「人生を聖書と共に」を配し、後半は、彼の膨大な仕事から主要作品を7点を取り上げ、内容と意義を解説する。格好の「ボウカム入門」であり、聖書神学の最先端への道案内である。

寄稿者 R・ボウカム、マーク・エリオット、伊藤明生、岡山英雄、山口希生、浅野淳博、小林高德、横田法路、遠藤勝信

◆四六判・本体1600円

十字軍とイスラーム世界

神の名のもとに戦った人々



十字軍は侵略者だったのか？『キリスト教とローマ帝国』で著名な宗教学者が、西洋帝国主義の嚆矢とされる通説的十字軍像を歴史的に再検討し、その宗教的動機や社会的背景に迫った興味のある尽きない話題作。緻密な資料分析から、「聖地」をめぐるキリスト教世界とイスラーム世界の衝突の真相が浮かび上がる。

◆四六判・本体3200円

18の基本概念 ロゴセラピーのエッセンス

ヴィクトール・フランクル著／赤坂桃子訳

フランクルが『夜と霧』英語版に付した貴重な入門論文。ロゴセラピーの18の基本概念をコンパクトに説き明かす。また初期論文「心理療法における精神の問題について」を付す。巻末の解説は、日本でロゴセラピーを実践する精神科医・本多奈美氏（東北大学）と臨床心理士・草野智洋氏（静岡福祉大学）による2本。

◆小B6判・本体1850円



本
の
ひ
ろ
ば
一九五七年七月一日発行 第三種郵便物認可
二〇一六年十一月一日発行（毎月一回一日発行）

発行所 〒162-0814 東京都新宿区新小川町九-1 一般財団法人キリスト教文書センター
電話〇三三二六〇一六五二〇 振替〇〇一七〇五一二六七九
発行人 本村利春 編集人 土肥研一 印刷所 (株)平河工業社
発売所 日本キリスト教出版株式会社 電話〇三三二六〇一五六七〇

島の小さな教会

◆ B5判・本体 2000円

多摩美術大学環境デザイン学科 編著

瀬戸内海に浮かぶアートの島・直島（なおしま）のユニークな会堂。その建築コンセプトを美しい写真と共に紹介する。

「祈りを刻み込んだ教会堂！」（加藤常昭氏）



定価七八円（税抜七円）（千70円）
一年分二三〇〇円（送料含む）